



◆ 国際海運からのブラックカーボン排出に関する検討

【経緯】

船舶から排出されるすす等のブラックカーボン(BC)が北極域の環境に与える影響の実態を把握するため、IMOの要請により各国が実施中のBCの計測結果を報告するための統一様式案が作成されました。

【審議結果】

今次会合では、我が国が実施した実験室内及び船上でのBCの計測結果^(注)に基づき、再現性のある適切な計測方法の特定に向け、以下を提案しました。

① 前回会合で作成された計測結果の統一様式案のデータ項目の見直し

② さらなる計測データの拡充

審議の結果、関心がある国がさらなる計測を行うとともに、統一様式案のデータ項目の見直しについては、今次会合以降、メールベースでの意見交換(コレスポネンスグループ:CG)を行い、次回会合に報告することになりました。

(注)(国研)海上・港湾・航空研究所 海上技術安全研究所が実施

◆ 排ガス再循環システム(EGR)排水ガイドラインの策定に関する検討

【経緯】

船舶からの窒素酸化物(NOx)の排出は海洋汚染防止条約で規制されていますが、その排出を抑制するための装置である「排ガス再循環システム(EGR)」の運転に伴い発生する冷却水の排水方法がこれまで定められていませんでした。

【審議結果】

今次会合では、適切な排水管理のため、我が国より以下を含む排水ガイドラインの素案を提案しました。

① 排水中の水素イオン濃度(pH)のモニタリング実施

② 発生した残渣量の記録の実施、等

日本提案をベースに審議を行った結果、ガイドライン案が最終化されました。今後、承認のため、MEPC71(2017年7月開催予定)に報告される予定です。